

木の下館跡

遺跡番号	平成8年度登録
調査回数	第3次
所在地	鶴岡市大字水沢字水京他
北緯・東経	38度42分30秒・139度44分06秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積	750㎡
現地調査	平成18年4月17日～7月13日
調査担当者	佐藤正俊（調査主任）、深澤 篤
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、鶴岡市教育委員会、庄内教育事務所
遺跡種別	包蔵地、城館跡
時代	旧石器時代、縄文時代、中世、近世
遺構	曲輪、竪穴住居跡、溝状遺構、炭窯跡
遺物	石器、須恵器、銅銭、中世陶器、陶磁器、磁器 （文化財認定箱数：1）



調査の概要

木の下館跡は平成8年度に山形県教育委員会によって新規に登録された遺跡で、同教委『山形県中世城館遺跡調査報告書 第3集(庄内・最上地域)』では築城者不明ながら戦国期に築城された城館として報告されている。(同書91ページ。遺跡番号203-048)

本遺跡は近接するいくつかの遺跡とともに日本海沿岸東北自動車道の路線内にかかることになったため、日本道路公団東北支社（現・東日本高速道路株式会社東北支社）と山形県教育委員会との協議の結果、財団法人山形

県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を実施することになった。

計画路線内全体の遺跡面積はおよそ5,400㎡で、遺構・遺物の分布状況を把握する第1次調査は平成16年12月に行われた。そして平成17年度には東部の3,900㎡を対象として第2次調査が実施された。今回残る1,500㎡の内750㎡を第3次調査として行った。

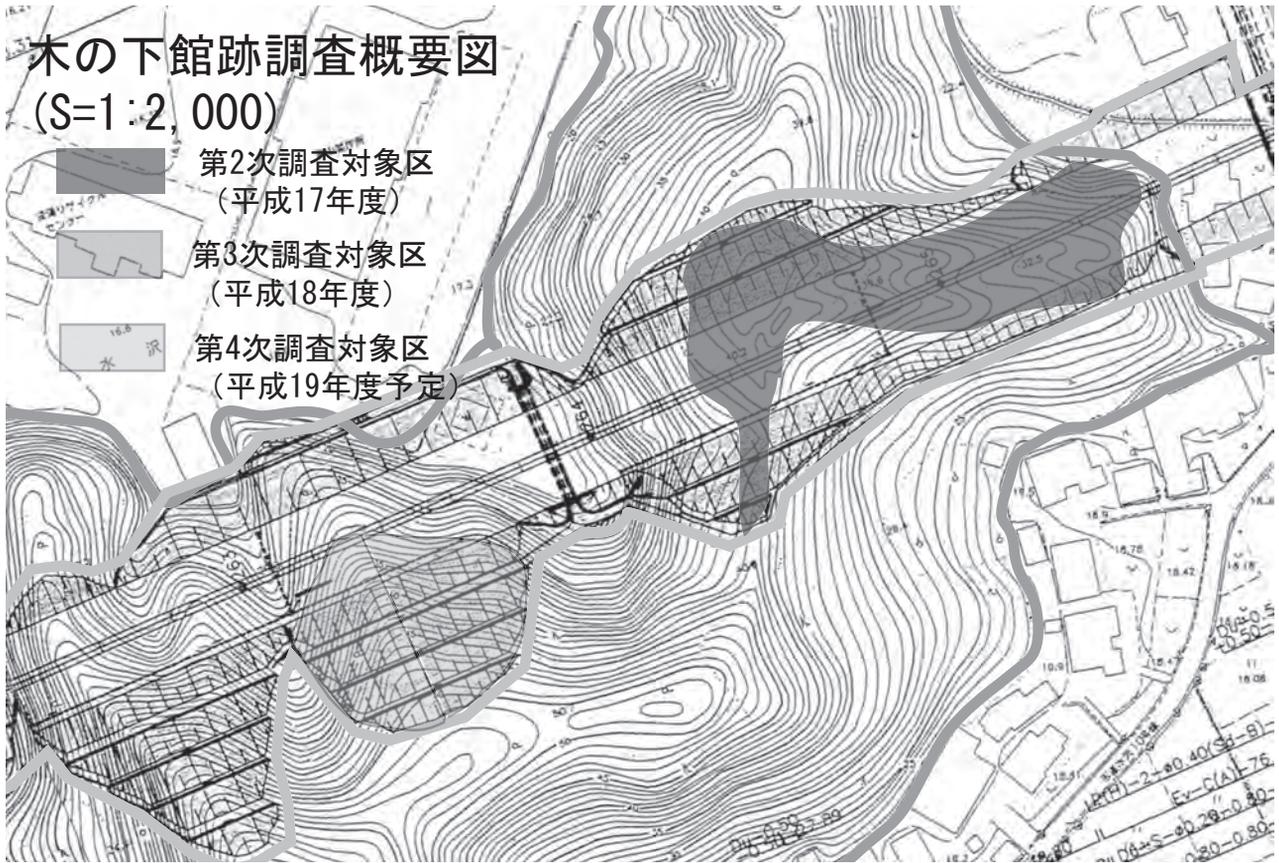
第3次調査は平成18年4月17日に開始され、①器材搬入②調査区の設定③重機での表土除去ができないため、人力による表土除去及び遺構検出④遺構精査と記録といった手順で行われ、同年7月13日に終了した。

遺跡はJR羽越本線羽前水沢駅の南方約0.7kmに位置し、西の大戸川、東の大山川に挟まれた京田山（標高65m）の山上に立地する。

遺構と遺物

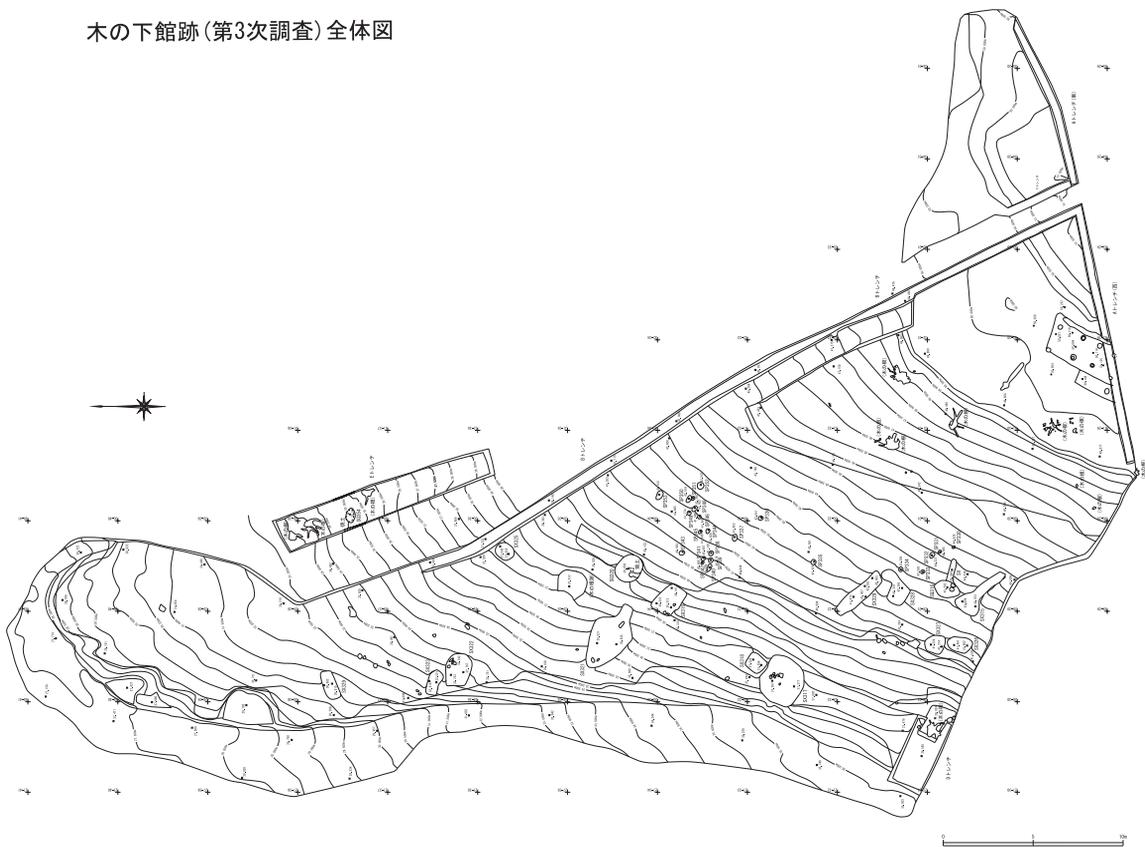
今回の発掘調査で見つかった遺構は、曲輪跡・竪穴状遺構・溝状遺構・ピット・炭窯跡・不明遺構である。

曲輪跡は、土層断面で7段を確認でき、旧地形である山の形を利用し、斜面を削って構築したことが判った。調査区南側の路線外の部分が一段高くなっており、曲輪がもう一段あった可能性もある。曲輪確認のためのトレンチを掘った際、6段目から性格不明の落ち込みが一箇



調査概要図

木の下館跡(第3次調査)全体図



遺構配置図

所検出された。

曲輪2段目の平坦な場所からは、竪穴状遺構2棟が検出された。2棟は切りあっており、ST301は長辺約4m(現存)・短辺約2mの長方形を呈しており、9本の柱穴を伴っている。長辺は南側に延びており、全容は不明である。ST302は壁ぎわに炉跡が検出されたが、規模や性格いずれも判らない。いずれも、特定される遺物が出土していないため時期は不明である。

曲輪の斜面中腹からは炭窯跡3基検出された。SQ316は、長径1.5m・短径0.9m円の楕円形を呈している。SQ320は、直径1.6mの円形を呈している。両方の遺構からも上層から多量の炭くずが、床面から真っ赤に焼けた土が確認された。炭くず以外の遺物の出土は無く、時期については不明である。

遺物は、土器や石器が整理箱1箱分出土した。旧石器時代の石器剥片、平安時代の須恵器片、鎌倉時代の珠洲焼、近世陶器・磁器、古銭(寛永通宝)などが、調査区全体から散在して出土した。

まとめ

3次調査の成果は、次のとおりである。

- ・曲輪跡は2次調査区から南にある本丸への通り道にあたり、防御する上で重要な役割をはたしていたと考えられる。
- ・竪穴状遺構は関連する遺物が無く、時期を特定することはできない。しかし、上層面より近世陶器が出土しており、これよりは前の時期である。炭窯とセットで考えるなら、作業小屋や物置のような施設であったと推測される。
- ・炭窯跡の時期は遺物の出土が無いため不明である。製鉄との関連が考えられるが、鉄滓などの製鉄関連の遺物は出土していない。また、昨年度調査された万治ヶ沢遺跡からも検出されており、形態が似類している。



調査区全景(北から)



調査風景(南から)



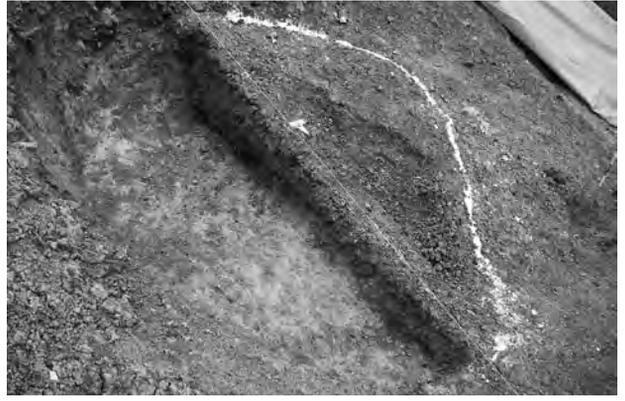
曲輪跡(南から)



ST301・ST302竪穴状遺構(北から)



SQ316炭窯（北から）



SQ320炭窯（北から）



調査区完掘全景（西から）



出土遺物



空撮（西から）